

様式第7号（第21条関係）

番 号
令和 7年 5月30日

佐賀県県民協働課長 様

住 所 佐賀県三養基郡基山町宮浦182-1
団 体 名 基山フューチャーセンターラボ
代表者職・氏名 代表：鷺尾依子
電 話 番 号 携帯：090-2714-1826（クボヤマ）

佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による
寄附金活用実績報告書

令和6年度において、当団体に交付された佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」を活用して別紙のとおり事業を実施したので、佐賀県ふるさと寄附金（「県民協働の地域づくり」及び「NPO等を指定した支援」）による寄附金交付要綱第21条第1項の規定により提出します。

-

令和6年度 佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による寄附金活用実績報告書

- 1 団 体 名 : 048_基山フューチャーセンターラボ
- 2 事業実施期間 : 令和6年4月1日 から 令和7年3月31日
- 3 事業の背景 (※事業計画書から転記)

■事業の実施により実現したい佐賀県の地域像

- ・「地域円卓会議」…地域の個別課題に対する地域住民自らによる議論の場を設け、繰り返し実施することにより、地域の課題を共有し方向性を見出す。
- ・「まちゼミ」…住民自治やおもてなしなどについて、地域住民が勉強する場・聞き合う場づくりを行うための土台作りとして、まちづくりのアドバイザーを招請したゼミを実施する。また、アドバイザーの意見等を活かした地域住民(ボランティア)主体によるゼミを実施する。
- ・「DMO・DMCにかかる観光の担い手育成事業」…「観光から関係へ」を基軸とし、まち歩きの出発点とする。
- ・「知(地)の出発点づくり」…中心市街地における空き家・空き店舗の再生およびリノベーションを図る調査出発点とする。

4 事業の成果

①県民の便益にどのようにつながったのか

若年層(高校生～30代)が主体的で、対話的で、深い学びを実践する場づくりとして、様々な企画運営を行いながら、ふるさと佐賀への意識を醸成させることができた。

1) 地域の課題解決に向けたアイデアの発掘と実現
まちゼミや地域円卓会議は、地域住民が直面する課題や問題を議論し、その解決策を見つける場となった。これにより、地域住民が主体となって、地域の発展や改善につながるアイデアを生み出し、実現することができた。

2) 地域の情報交流やネットワークの形成
知の出発点づくりによって、佐賀県内外の人々が集まり、交流することで、新たなアイデアや情報を得ることができた。また、地域内でつながりのある人々のネットワークを形成することができるため、地域課題の解決に向けた協働や連携が生まれる可能性が創出された。

3) 人材育成の場の提供
基山フューチャーセンターラボは、若者や地域住民がアイデアを生み出す場を提供するだけでなく、アイデアを実現するためのスキルや知識を身につける場となり、これにより、地域に必要な人材を育成することができ、地域の人材育成に貢献することができた。

②佐賀から広がった社会像(該当する活動のみ)

- 5 寄附金活用事業実績 : (別記1)
- 6 次年度繰越額活用見込み : (別記2)
- 7 寄附金活用額 : (別記3)

(別記3) 寄附金活用額

【収入】佐賀県ふるさと寄附金収入額 … ① (=A+B)		669,450
(内訳)	本年度の佐賀県ふるさと寄附金収入額 … A	560,433
	本年度交付を受けた佐賀県ふるさと寄附金分	550,000
	前年度控除額(県事務経費)還付分	10,433
	前年度収入済の佐賀県ふるさと寄附金繰越額 … B	109,017

【支出】佐賀県ふるさと寄附金活用額… ② (=a+b)		669,450
(内訳)	事業に活用した寄附金額 … a	550,000
	ふるさと納税の募集に要した費用の額 … b	119,450
	返礼品等の調達に係る費用	90,100
	返礼品等の送付に係る費用	16,150
	広報に係る費用	0
	事務に係る費用	13,200

佐賀県ふるさと寄附金の次年度繰越額 … ③ (=①-②)		0
-------------------------------------	--	----------

■直近の収支報告書掲載箇所(ホームページURL等)

<https://fields.canpan.info/organization/detail/1415975414>